

「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）」の公表について

東京都都市整備局は、東京都震災対策条例に基づき、昭和50年から概ね5年ごとに実施している「地震に関する地域危険度測定調査」の最新結果を取りまとめ、令和4年9月に公表した。

1 調査の目的

- (1) 都民の防災意識の高揚
- (2) 震災対策事業を実施する地域を選択する際に活用

2 地域危険度

全ての町丁目直下の地盤で同じ強さの揺れが生じた場合の危険性を測定し、相対的に評価したもので、建物倒壊、火災、総合の3つの危険度について、都内5,192町丁目（江東区155町丁目）毎に、5段階にランク分けする。

3 測定手法

(1) 建物倒壊危険度

建物の構造や建築年代、地盤の特性、液状化の可能性をもとに建物倒壊危険量を測定し、その都内順位によりランク分け

(2) 火災危険度

出火及び延焼の危険性をもとに火災危険量を測定し、その都内順位によりランク分け

(3) 総合危険度

建物倒壊危険量と火災危険量を合算した危険量に災害時活動困難係数※を乗じて測定し、その都内順位によりランク分け

$$\boxed{\text{建物倒壊危険量} + \text{火災危険量}} \times \boxed{\text{災害時活動困難係数}} \Rightarrow \boxed{\text{総合危険度}}$$

(※) 災害時活動困難係数

災害時の活動に有効な空間の多さや、道路ネットワーク密度の高さといった道路基盤などの整備状況から、危険地域からの避難や消火・救助活動のしやすさ（困難さ）を評価した指標（前回の「災害時活動困難度」から呼称変更）

4 江東区の結果（概要）

- (1) 平均して建物倒壊危険量が約 2 割、火災危険量が約 5 割と共に低下しており、防災性は向上
- (2) 総合危険度が 4 以上の町丁目は以下のとおり

総合危険度	町丁目名
5	亀戸 5、大島 7、北砂 3・4・6、東砂 5
4	常盤 2、森下 4、三好 2、海辺、亀戸 3、大島 1・2・3・8、東砂 3・4、南砂 4

5 調査結果の確認方法（主なもの）

- (1) 東京都都市整備局のホームページに調査報告書・パンフレット等を掲載
- (2) 東京都オープンデータサイトにデータを掲載

地域危険度とは

本調査では、以下の危険性を町丁目ごとに測定しています。

- 建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）
- 火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度（上記2指標を合算し、災害時活動困難係数を乗じて、総合化したもの）

どのような地震を想定しているのか

地震はいつ、どこで起きるか分かりません。そこで本調査では、特定の地震を想定するのではなく、全ての町丁目の工学的基盤（注）において、同じ強さの地震が起きたと仮定し、危険度を測定しています。

どのように地域の危険性を測るのか

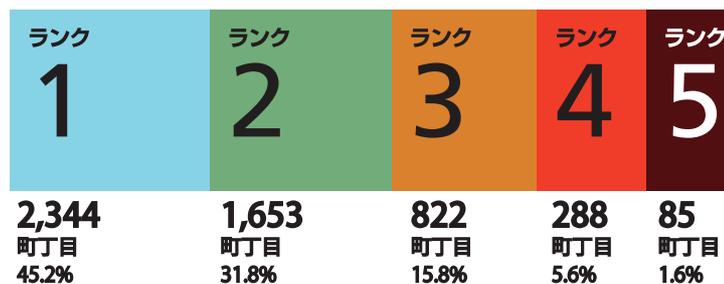
本調査では、区部及び多摩地域の市街化区域を対象に、町丁目を単位として、地震による危険性を科学的に測定しています（地域危険度の測定フロー参照）。

ランクをどのように分けているのか

地域危険度のランクは5段階の相対評価としています。各ランクの存在比率をあらかじめ定め、危険量の大きい町丁目から順位付けを行い、ランクを割り当てています。

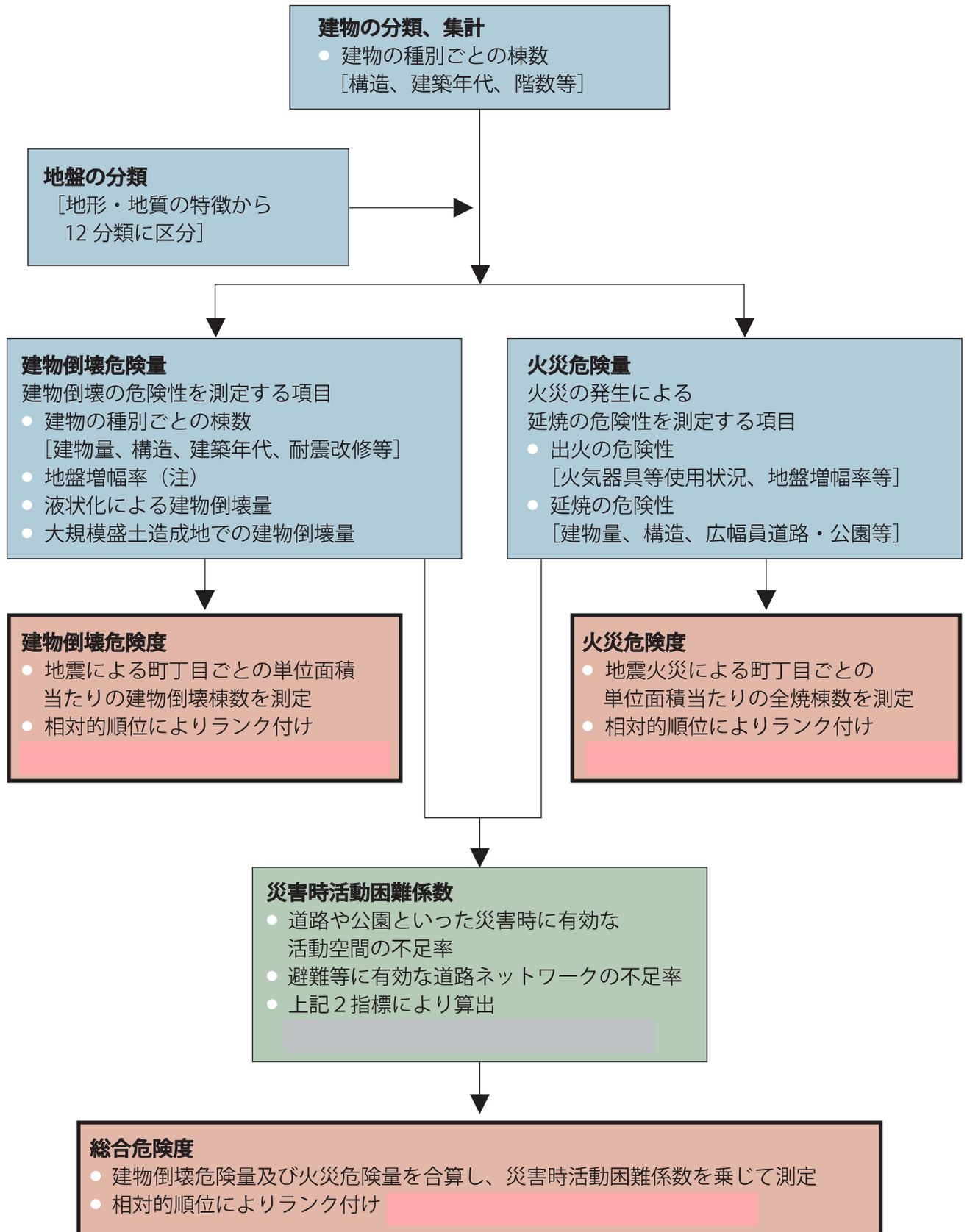
（注）工学的基盤：建築物等を支持し得る耐震設計を行う場合などに入射地震動を設定する地盤で、浅部層のN値が50以上（S波速度で300m/sから700m/s程度以上）の良好な地盤を指します。

危険性が低い ←————→ 危険性が高い



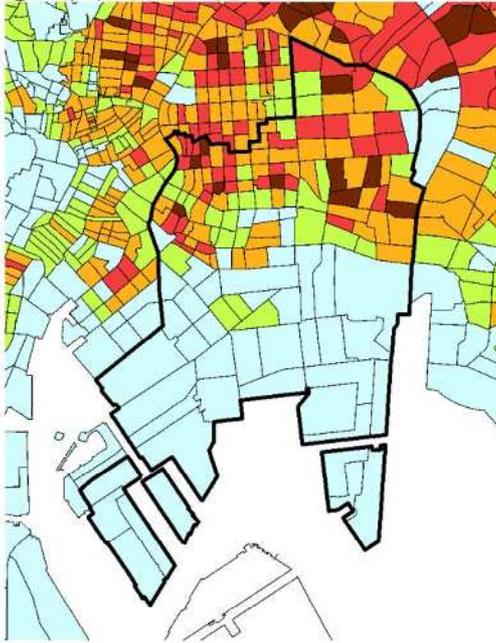
（注）危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がより一層向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。

地域危険度の測定フロー

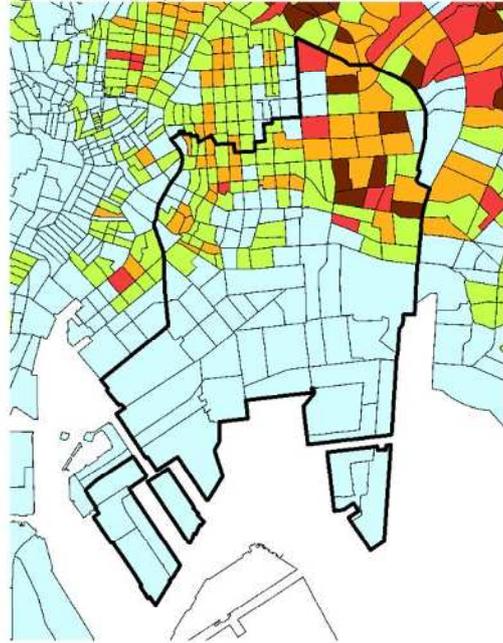


(注) 地表面の揺れの大きさ（最大速度）を工学的基盤の揺れの大きさ（最大速度）で除した値

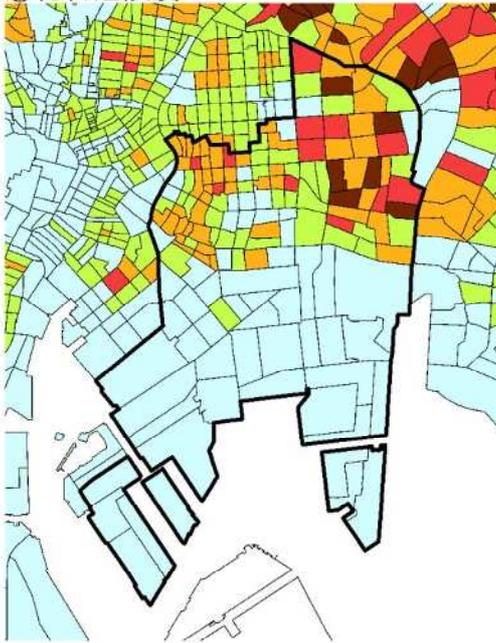
①建物倒壊危険度



②火災危険度



③総合危険度



凡例

市界 市区町村界

町丁目界

建物倒壊危険度

火災危険度

総合危険度

ランク 順位

5 (1-85位)

4 (86-373位)

3 (374-1195位)

2 (1196-2848位)

1 (2849-5192位)